

5.まとめにかえて

地域産業
環境

川はどこにあるの？

第1章 十勝の平野や川ができるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展、今、そして未来へ

用語
さくいん



音更川と、その河川敷にあるパークゴルフ場(音更町)。河川敷(高水敷)は、洪水になると水が流れる「川」の一部。

だれでも「川」を知っていると思います。

でも、あらためて聞きます。川ってなんでしょう？どこからどこまでが川なのでしょう？

「水が流れているところが川じゃないの？」もちろん、それも正しい考えです。

広辞苑(岩波書店)によると、川は「地表の水が集まって流れる水路」だといいます。

一方、役所が川の場所(河川敷地)というのは、堤防と堤防の間のことです。ふだん水が流れていない河川敷(高水敷)も「川」なのです。(p224・p211)

「川の中」で、パークゴルフをしたり、スポーツをしたり、遠足や散歩をしたりしているわけです。



十勝川とその近くの「氾濫原」にある市街地。堤防がなければ、洪水が広がり、十勝川の流れが移ることもあったところ。

氾濫原も「川」

十勝平野では、川がつくりだしてきた「段丘地形」がよく見られます。一番低い段丘よりさらに一段低い地面は「氾濫原」といって、川はこの平地を流れます。(p46・p49)

氾濫原は、堤防がなければ大洪水の時には水につかかります(p186)。また、今、川の流れがなくても、何百年か、何千年かの間には、流れがやってきた(やってくる)場所です。

人の一生より長い目で見ると、氾濫原全体が「川」なのだといえます。ということは、今「川の中」に家や畑がたくさんあることになります。

一方、多くの遺跡は、この「川」ではなく、段丘の上で見つかっています(p70)(氾濫原にある遺跡もあります)

地下を流れる「川」

札内川の「札内」という名は、アイヌ語の「サツナイ」で「かわく川」という意味です。水が少なくなると、河原が広くなり、さらには、水の流れが見えなくなってしまうことがある川なのです。(p127)

しかし、その下流には、再び川の流れが出てきます。札内川の地下には厚い石の地層(れき層)があります。川の水は目に見えなくなっても、このれき層の中を流れているのです。川は地表だけではなく、地下にもあるのです。

札内川の水がきれいな理由のひとつには、この石の間を流れてくる間に、よごれが除かれるということがあったと考えられます。(p244)



水の流れがなくなり「サツナイ」となった札内川(上札内橋・中札内村)。目には見えないが、地下に流れがある。

1 高水敷(こうすいしき): 洪水(こうずい)になったとき、ふだん水が流れるところからあふれた水(高水)が流れるところの正式な呼び方。いわゆる河川敷(かせんしき)のこと。ふだん水が流れるところは「低水路(ていすいろう)」という。大きな川の場合、

低水路と高水敷の間に、もう一段「中水敷(ちゅうすいしき)」がある場合もある。
2 氾濫(はんらん): 川の水がふだんの流れから(または堤防(ていぼう)から)あふれ出すこと。

丘の上にある昔の「川」

石ころ（れき）の多くは、山の岩がくずれて、くだけたものが、川によって運ばれたものです。れきが厚くたまつた「れき層」は、川がつくり出したものです。

ところが、まわりより高い丘の上にもれき層があるところがあります。

札内N遺跡（幕別町： p97）のあった丘には、およそ4万5千年前にたまつた厚いれき層があります（ p54）。また、稲士別（幕別町）の丘には、その頂上近くに、およそ70万年前のれき層が見つかっています（ p44）。こうした丘の上のれき層は、十勝平野のいろいろなところにあります。

これらの場所は、かつて扇状地や氾濫原だったところです。そして、長い間にもり上がったり、周りが川にけずられていく中で残されて、丘となっているのです。（ p49）

多くの丘も、かつては「川」だったのです。



（上）稲士別（幕別町）にある丘。近くを流れる稲士別川より50mくらい高い。



（左）上写真の丘の高いところにあるれき層。

第1章 十勝の平野や川ができるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展、そして未来へ

用語

さくいん



雨にけむる札内川上流（中札内村）。山の上に降った雨が滝をつくり、札内川に流れこむ。

陸上はすべて「川」？

降った雨やとけた雪は、地下にしみこむものもありますが、地表を流れると川になります。しみこんだ水も、地上にわき出てきた時には川となります。（川の水が地下にしみこむこともあります）

雨や雪は、陸上（海上も）のどこにでも降ります。つまり、陸の上は平野も丘も山の上も、屋根も道路も畑も学校のグラウンドも、すべてが「川」とつながっているのです。

家や学校の中にも「川」はある

水道の水は、わき水や地下水から取られることもありますが、多くは川から取られています。（ p214）

また、わたしたちが食べるごはんの米は、川から水を引いてつくる水田でとれたものです。

一方、体に入った水の多くは、大小便として出されます。こうした排泄物は下水道に流されると、処理場できれいにされたあとに川へ流されます。（ p215）

あるいは、電気は今の暮らしに欠かせないものとなりましたが、十勝の発電所のほとんどは、川の水を使って発電する水力発電所です。（ p215）

わたしたちの家や学校の中などにも、いろいろなすがたをした「川」が入ってきているのです。



家や学校など建物の中にも「川」はある。

3 十勝の発電所（とかちのはつでんしょ）：十勝の発電所で発電した電気がどこで使われているかは決められない。十勝をふくめた北海道東部へは、苫東厚真発電所（とまとあつまはつでんしょ＝火力発電所：厚真町）などで起こされた電気に十勝の水力発電

所などで起こされた電気を合わせて各地に送電されている。